

19春闘 東海地本 FAXNEWS

全国福祉保育労働組合東海地方本部

TEL052-881-2971

FAX052-881-2998

fukuhotk@onyx.dti.ne.jp

<http://www.fukuho-tokai.jp/>



- ・せーので国民春闘！3.14 いっせい行動！ 要求書は提出したかな？
- ・福祉は権利！暮らしを壊す改憲を許さない！
- ・要求前進を目指して1200人地本へ！

VOL 3

「3・14ストライキを含む全国いっせい行動」について討議を深めよう

★激励メッセージをいただいています！ ③



19春闘「ストライキを含むいっせい行動」の『檄』第3弾は、木全先生です！現場での実践を通して「福祉のプロ」になっていく社会福祉労働者として、私たちは、「なぜ、スト（を含むいっせい行動）をするのか?!」、分会でも出し合い、自分の言葉で綴り、語り、多くの人と対話していきましょう！

「なぜ いま わたしたち 社会福祉労働者は ストライキをするのか」

木全 和巳（日本福祉大学）

ここのところ名北福祉会、みなと福祉会と続けて、実践を綴り、発表して、討論をするという実践研究交流の場に、参加しています。

みなと福祉会の交流会では、鶴山彰子さんが、「「福祉のプロ」に気づくまで」というレポートを綴って報告しました。強度行動障がいのあるOさんとの関わりと発達保障の学びが、研修という機会を通して鶴山さんの中で重なり、自分に納得できるかたちで理論がからだにしみ通る体験を「自分のものになった」と表現しています。そして、「福祉のプロとして働くということは専門の知識を得るだけではなく、実践とそれらをマッチングさせること、その技術論、方法論を身につけた実践へフィードバックさせていくことなのだと思います。人対人の効果の見えにくい世界ですが、だからこそ自分がするはたらきかけの相手を的確に理解することや、組み立てる実践の意義や目的を理解していることが重要なのだと思っています」と、まとめています。

グループでの話し合いは、鶴山さんのおもいを受けとめ、「自分の思う「福祉のプロ」」について話し合いました。こうした話し合い積み重ねを通して、一人ひとりが自分のなりの「福祉のプロ」とは何かを自問自答しつつ、ちからをつけていくのだと、改めて確認することができました。

わたしのねがいは、誰もが実践を綴ることができるような「専門職（プロフェSSIONAL）」になることです。一人ひとりが自分の頭でしっかり考え、自分の足ですっきり立ち、社会の不正や悪に立ち向かい、社会正義と人間の権利の擁護者として、働く人々として手をつなぎ、仲間たちに寄り添える実践者になるために、必要不可欠な取り組みだと、思うからです。

恵那の綴り方教師、丹羽徳子さんは、「綴ることは、ものをしっかりみていくこと／綴ることは、ものをしっかり考えていくこと／綴ることは、自分の心がはっきりしていくこと／綴ることは、みんなの気持ちがつながっていくこと」と、綴ることの大切さをまとめています。

わたしのねがいは、「なぜいまわたしたち社会福祉労働者はストライキをするのか」を一人ひとり自分のことばで綴ってみて欲しい。そして、こうした通信を使いながら、それぞれのことばを受けとめながら、交流して欲しいと思います。わたしは、現在の社会情勢を受けとめたとき、積極的にストライキを積極的にしようとする社会福祉専門職を「プロフェSSIONAL」とは呼びたくないと考えています。そして、みなさんのストライキを応援できない市民は、市民と呼べないとも。

ここから、ストライキの成功を応援します。